The TKF TIMES

高崎経済大学附属高校新聞部　平成29年　4月28日(金)発行4月号

希望と不安を胸に　入学式

本校の入学試験は、今年も県内トップクラスの倍率を記録した。そんな高い壁を見事乗り越え、高経附に新たな仲間277名が加わった。満開の桜に祝福され、希望と不安を胸に入学式へ臨んだ彼らの様子を余すことなくお伝えする。（小杉）

4月10日（月）に本校の第24回入学式が行われた。今年は例年に比べ気温が低かったため、幸運にも桜が満開の状態での挙行となった。本年度は普通コース245名、芸術コース32名、計277名の入学が許可された。また、高崎市長や高崎経済大学学長などが祝辞を述べ、新入生を激励した。

▶緊張を感じる新入生の背中

式辞を述べた本校の森泉孝行校長は「日々の授業、部活に励み、目標に向かい達成する喜びを感じてほしい」と新入生に言葉を贈った。

また、生徒会長の寺島佑梨亜さん（3年）にインタビューをしたところ「高校は大変なことばかりですが、それ以上に楽しいことばかりです。失敗を恐れずにたくさんのことに挑戦してみてください」と、新入生の入学を歓迎していた。他にも芸術コース生徒による校歌発表など、高経附の特色を紹介した。

図書室が今年度から変わります！

高経附の図書室が今年度から利用者増加を目指して行動を始めていることをご存知だろうか。そこで今回は図書室の新たな試みと、新1年生に向けた本の借り方を紹介するとともに、2人の司書さんへのインタビューを掲載する。（石井）

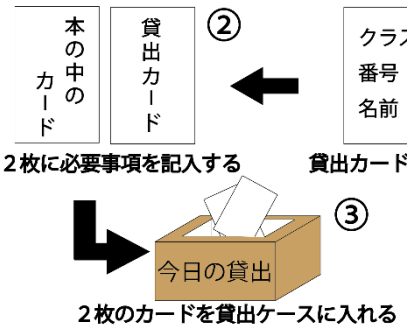
図書室の改革

図書室の開館時間は平日午前8時半～午後5時で、長期休業中も開館しており自習などに活用する生徒もいる。しかし、昨年度の貸出冊数は364冊、貸出のべ人数は259人と、全校生徒数833人と比べてかなり少ない。毎年魅力的な新着図書が多数加わる中でのこの現状に、図書委員や司書の先生方は何とか打開策はないかと模索していたそうだ。

そんな中、今年度から新たな試みが始まるという。その内容は、先生方おすすめの本のコーナーを作ったり、図書委員の生徒に昨年度より活躍してもらったりというものだ。また、パソコンで貸出ができるように着々と準備を進め、気軽に借りられるようにもなるという。

図書室の利用方法

現在はまだパソコンでの貸出ができないため、カードでの手続きが必要である。



初めて借りる場合はまず、①自分の貸出カードを作る（クラス・番号・氏名を記入する）。②「借りたい本の後ろに入っているカード」と「自分の貸出カード」の2枚に必要事項（氏名・書名・貸出日・返却日）を記入する。③カウンターにある貸出ケースの自分のクラスの部分にその2枚を入れると貸出手続が完了する。なお、一回の貸出で3冊まで借りることができる。

貸出期間は2週間で、本を返すときはカウンターの貸出カードケースから借りた本の貸出カードを捜し、返却日を記入して本に挿み、返却箱に入れると手続が完了する。

☆突撃！司書さんインタビュー☆

図書室を管理して下さっている、司書の植原和世さんと上原早苗さんにインタビューを行った。

Qおすすめの本は？

A植原さん：吉永南央の『紅雲町　珈琲屋こよみ』シリーズです。舞台は北関東の「ある」町です。

A上原さん：たなかしんの『カエルム　魔法の鍵と光の冒険』です。かわいい絵で心温まるお話です。

Qよく読んでいる本のジャンル・好きな本は？

A植原さん：推理小説が多いです。図書館でその時の気分で選んでいます。

A上原さん：ジャンルを問わず気になった本を手にしています。

Q経附生に一言

A植原さん：忙しいとは思いますが、若いうちにどんどん古典を読破してみてください。時空を超えて共感できる楽しみを味わってもらいたいです。

A上原さん：図書室に来てみて。読みたい本があるかもよ。

No picture

▲植原さん(左)と上原さん(右)

交通安全教室

4月13日(木)・14日(金)に本校で交通安全教室が行われた。本校では毎年春に新入生を中心に交通事故の件数が増加する傾向があるため、その対策として毎年この時期に交通安全教室が開催される。内容は例年と同じく2段構成で、校庭で自転車を使った実技講習、体育館で交通安全に関する座学講習が行われた。（本間）

校庭で行われた実技講習は2種類あり、1つめは「8の字走行」だ。これは「8の字で描かれた半径約5mの円の内側を20人程度が自転車で走行する」というもので、走行中に状況を判断する力や、路上での相手への気遣いを学べるようだ。

2つめは「反応回避」で、「旗を持った先生に向かって自転車で走行し、旗の挙がった方向と逆方向に回避する」という内容だ。これは、人や物を認識してから行動に移るまでに一定の時間が掛かることを体感するために行われるそうだ。

今回の実技講習を総括した金岡先生に話を伺うと「交通事故防止にはその場の状況や環境を適切に判断し、行動することが大切です。自分の命や他人の命を守るためにも、交通ルールやマナーを遵守しましょう」と答えてくれた。

▲反応回避の様子

校庭の実技講習と並行して、体育館ではスクリーンを使用した座学講習が小代先生によって行われた。

主な内容は「交通ルールの確認」と「事故に遭ったときの対処法」だ。交通ルールについては、実際に本校の周辺を走行している様子の動画を参考に、右側通行や一時停止、前後の確認をしっかりとするように注意を促した。

▲小代先生による講習

また事故に遭ったときの対処法については、生徒手帳で対処法や緊急連絡先を確認し、必ず相手の連絡先を確認することや、警察の到着を待つよう呼びかけた。

座学の講師を務めた小代先生に生徒へのメッセージを伺うと「今回の交通安全教室をきっかけに、経附生として恥ずかしくないよう、交通ルールをしっかりと守って無事故を目指しましょう！」と語ってくれた。